

出題分析		
試験時間 60 分	配点 100 点	大問数 4 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>例年通り、全 50 問が選択問題。大問 4 題構成のうち、〔Ⅰ〕・〔Ⅱ〕・〔Ⅳ〕は語群選択式、〔Ⅲ〕は三者択一式であった。〔Ⅰ〕では近世・近代における医学の発展、〔Ⅱ〕ではA藤原不比等と大宝律令、B長屋王～藤原仲麻呂の時代、〔Ⅲ〕ではA院政、B鎌倉時代の文学、C鎌倉幕府と室町幕府、D豊臣秀吉の時代、〔Ⅳ〕では近世～現代の対外史について、地図より適切な位置を選択する問題とともに出題された。原始時代と古代文化史からの出題はなかったが、古代から現代まで満遍なく問われた。基礎的な事項を問う問題が大部分を占めており、例年通りいかに失点を抑え、高得点を獲得するかがポイントとなる。難易度は昨年並みであった。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
〔Ⅰ〕	近世・近代における医学の発展	基礎的事項がほとんどであった。得点差がつきにくいため、ミスしないよう慎重に解答したい。 (3). 細かい知識が問われた。(5). (ヌ) の宇田川榕庵と間違わないようにしたい。(7). (ニ) の高橋至時と区別できるかどうか。	標準
〔Ⅱ〕	A 藤原不比等と大宝律令 B 長屋王～藤原仲麻呂の時代	一部細かい知識も問われたが、語群選択式であるため、答えやすい。(1). 教科書本文にも掲載があるが、やや細かい。(2). やや細かい。日頃から教科書に載っている家系図にも目を通しておきたい。(5). なお、浮浪、逃亡は実際には明確に区別されていなかったといわれている。(7). 「大祚栄が建国」では判断に迷ったかもしれないが、「親密な使節の往来」という点で渤海とわかる。	標準

設問別講評			
〔Ⅲ〕	A『中右記』より院政の弊害, B『新古今和歌集』より鎌倉時代の文学, C「建武式目」より鎌倉幕府と室町幕府, D『小早川家文書』刀狩令より, 豊臣秀吉の時代	中世・近世の基本的な史料が中心で, 史料読解問題もなかったため, ケアレスミスをしないように解答したい。 問 1. 時期を特定しようとしたかもしれないが, 藤原宗忠が『中右記』で白河法皇を批判したことを知っていなければ難しい。問 7. 消去法でも解答可能である。『十六夜日記』は阿仏尼による紀行文, 『玉葉』は九条兼実の日記である。問 13. 刀狩令が何を目的として出されたのかを想起できるとよい。	標準
〔Ⅳ〕	A近世の鎖国政策, B近世の北方探索, C明治前期の国内外の動向, D大正～昭和戦前期の南洋諸島, E現代の東アジア	(3). 八王子を含む現在の東京都の大部分がかつては武蔵国であった。(4). 大黒屋光太夫と間違えないようにしたい。(8). 多くの国語の教科書で取り扱われているため判断できた受験生もいただろう。(6). やや細かい知識が問われた。(9). やや難。マッカーサーに関連して知っていたかどうか。 地点を選ぶ問題では, 対策をしていなければ判断に迷ったかもしれない。日頃から関西大学の対策を意識した学習ができていのかどうかで得点差がついた。(B)は難。間宮林蔵が樺太とその対岸を探查し, 間宮海峡の存在を確認したことを想起して地点bを選びたい。	標準

合格のための学習法

設問のほとんどが, 教科書や図説資料集に掲載されている内容で構成されている。全て選択問題で三者択一式も多いため, できる限り失点しないようにしたい。今年も一昨年・昨年に続いて原始時代からの出題はなかったが, 原始から現代まで偏りのない基本的な学習を徹底しよう。今年も多くはなかったが, 例年文化史が頻出であるため, 図説資料集を活用して学習を進めるのがよいだろう。史料問題対策としては, 基本的な頻出史料に目を通して内容を把握しておくことと入試本番で慌てなくてよい。関西大学入試日本史特有の地図問題では, 教科書の本文中に出てくる地点は必ず図説資料集などで確認しておこう。また, 今回は出題されなかったが, 時代の特定を求められる問題も関西大学入試日本史で特徴的な出題であるため, その対策としては, 西暦年を一つ一つ覚えるのではなく, 一つの出来事と年代について前後関係を関連付けて覚えてほしい。